# 日々の祈り

2020 年 10 月 12 日（月）～17 日（土）

宮崎中部教会

＜はじめに＞

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

＜用い方＞

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

＜今週の祈りの課題＞

・宮崎中部教会の一つ一つの業が、神さまに喜ばれるものとなるように。
・宮崎の地に住む人々が、神さまのご支配の内に守られるように。そして、救いの恵みを知ることが出来るように。
・世界の国々の歩みが、神さまの御心に適ったものとなるように。

12 日（月）

ルカによる福音書 10 章 36～37 節

さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。神さまに深く憐れまれ、愛され、救い出されたわたしたちです。わたしたちは、この神さまの憐れみの御心を知らされている幸いな者だからこそ、人を憐れむ者、人を愛する者となるように召されています。行って、愛する者となるように。行って、あなたが隣人となるように。神さまの愛と憐れみに生かされている者だからこそ、神さまが求めてくださる生き方です。

13 日（火）

ルカによる福音書 6 章 9 節

そこで、イエスは言われた。「あなたたちに尋ねたい。安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、滅ぼすことか。」

わたしたちは、表面的なこと、形式的なことに捉われ、こだわってしまうことがあります。神さまが与えて下さった安息日の律法は、神さまの恵みに与るために与えられたものでした。しかし、その御心を見失ってしまうと、安息日に人の命を救うことは、仕事をすることになるから律法違反だと裁くことになってしまいます。わたしたちは、「神を愛し、隣人を自分のように愛する」ことを求めておられる神さまの御心をしっかりと見つめ、神さまの言葉に従い、行なう者となりたいのです。

14 日（水）
歴代誌上 17 章 23 節
主よ、今この僕とその家について賜った御言葉をとこしえに確かなものとし、御言葉のとおりになさってください。

神さま以上に、誠実で、真実な方はおられません。神さまは、その語られた御言葉を必ず実行されます。神さまの約束は、反故にされることはありません。わたしたちがどれだけ不誠実であったとしても、神さまは初めから最後までご自分の誠実さを、真実を貫いて下さるのです。ですから、神さまの御言葉はとこしえに確かです。この神さまのゆえに、わたしたちは御言葉を信じ、すべてを委ね、従っていくことが出来るのです。

15 日（木）
詩編 119 編 105 節
あなたの御言葉は、わたしの道の光
わたしの歩みを照らす灯。

わたしたちは、調子の良い時は、日々が輝き、人生の道がまっすぐ開け、自分の思いのままに歩んでいけるような気がします。しかし、つまずいたり、立ち止まらされたり、倒れたりすると、四方を暗い壁で囲まれ、動けなくなり、そのまま闇の中に沈んでしまうように感じます。しかし、神さまの御言葉は、どのような時も、わたしたちの道しるべです。わたしたちの歩むべき道の光となり、歩みを照らす灯となり、主の御許へ、御心に従う道へと確かに導いて下さいます。この光だけを、神の御言葉だけを、わたしたちは頼りにすべきです。

16 日（金）
詩編 130 編 5 節
わたしは主に望みをおき／わたしの魂は望みをおき／御言葉を待ち望みます。

次の主日礼拝の御言葉です。ただ主にのみ、わたしたちの望みがあります。ただ主にのみ、わたしたちの魂はすべての望みをおきます。主よ、お語り下さい。あなたの御言葉だけが、わたしたちを新しくし、生かし、慰め、救いを与えて下さいます。

17 日（土）
ルカによる福音書 10 章 38～39 節
一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。

明日の主日礼拝の御言葉です。イエスさまの御言葉を求める人は幸いです。その御言葉に、すべてがあります。世の様々な思い煩いや、気遣いや、悩みごとが、わたしたちの心を散漫にします。しかし、そのような時にこそ、わたしたちは心を主の御言葉に向けて、最も大切なこと、最も必要なことを聞きたいのです。

聖句：日本聖書協会『聖書 新共同訳』